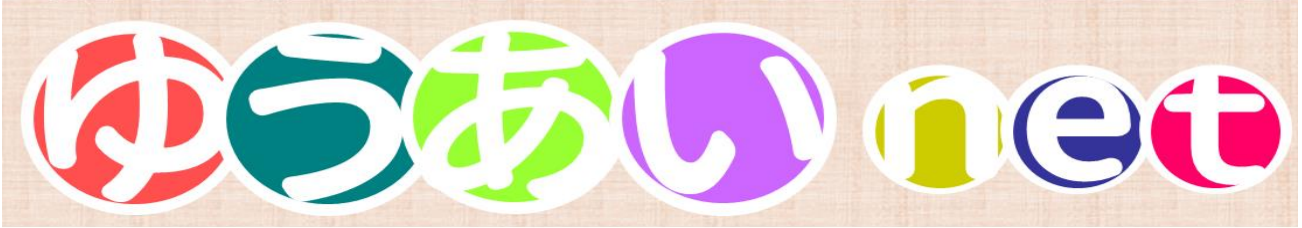


佐賀県の視覚障害教育を結ぶ



第 1 回弱視学級担当者等研修会 開催

4月15日（火）に今年度第1回目の弱視学級担当者等研修会を行いました。年度初めの忙しい時期でしたが、9名の先生方に参加していただきました。

初めに自己紹介をしていただいた後、研修として『弱視学級の指導・支援について』を行いました。弱視とはどのようなものを指すのか、また、弱視の子どもたちは自分の見え方をどのように捉えているのかなどについて、演習を交えながら説明しました。

その後、見えにくさのある児童生徒の指導・支援について懇談を行いました。以下がその一部です。



- ・電子黒板を見ようとしないのでどうしたらよいか。
- ・弱視の生徒だけど、部活動がんばっている。
- ・まるで見えているかのように校内移動をしている。
- ・白杖やルーペなどの用具はどこから借りられるか。

弱視学級を担当して間もないという方から、2～3年目になるという方まで、状況は様々でした。ただ、校内で先生方が相談・協力できる体制が整っているところが多いようで、児童生徒がたくさんの先生から温かく見守られ成長していくのが楽しみになりました。

見えにくさのある児童生徒は一人ひとり見え方が違います。研修で取り扱った基礎的・概論的な内容をもとに、それぞれに合わせた指導や支援が必要です。盲学校もできる限りのサポートをしていきますので、これからもお気軽にご相談下さい。

自立活動

「自立活動で何をすれば良いのか・・・」という声を聞きます。そこで、今回は自立活動について考えてみたいと思います。

自立活動とは…

特別支援学校の教育課程に設けられた、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導領域

目標は…

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

とあります。【特別支援学校学習指導要領より】

同様に、特別支援学級においても自立活動が必要です。ここで確認しておきたいのは、「自立活動は各教科や領域などのベースにある」ということです。教科や領域の指導の時間であっても、自立活動の指導は行われることになります。見えにくさを持つ児童生徒にとっては、教材の拡大や視覚補助具の利用など(の指導)がそれに当たるということです。

さて、では自立活動でどんなことを指導すれば良いのでしょうか。

学習指導要領には自立活動の内容として「健康の保持」、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「環境の把握」、「身体の動き」、「コミュニケーション」の6つの区分があり、そこに27の項目が示されています。これを念頭に、視機能（視力、視野、遠近感、情報処理等）の状態や行動観察、各種視力検査、諸検査、そして本人や関係者の聞き取りなどの実態把握を行い、そこから指導内容の検討や目標設定を行うことが多いようです。

指導の内容の例としては次のような事項があります。

○物の見方

いろいろな物の大きさや形、色などをよく見たり、細部まで詳しく見ようとしたりする態度と習慣を育てる。

見えるところまで近づいたり（対象物を）近づけたりして、しっかり見るように促します。



○視覚管理

自分自身の眼疾患等や見え方の状態を把握し、支援・配慮の申し出や自己管理ができる力を養う。

自分の見え方をきちんと把握させ、必要な時にはそれに応じた支援を求められるようにさせます。

私の見え方について

●私の視力は 5m離れた遠距離では

両眼 0.2 右眼 0.2 左眼 0.2

●私の視力は 30cm離れた近距離では

両眼 0.2 右眼 0.15 左眼 0.2

●私が見やすい文字のフォント（書体）は

UD教科書体、UDゴシック体

●私が見やすい文字のポイント（大きさ）は

22 P（ポイント）です。

●私は黒板の5m四方くらいの文字が

3 mくらいまでなら見えます。

●黒板に書かれたチョークの色は

黄色、白色 が見えやすく

○環境の把握

感覚を総合的に活用し、周囲の状況についての把握と状況に応じた適切な行動を身に付ける。

安心・安全な学校生活のために校内の環境把握をすることが大切です。階段や昇降口など薄暗い所では、足元がはっきり見えないと危険を伴います。児童生徒と一緒に校内を歩き、安全に留意する場所を確認します。階段は手すりを持つ習慣をつけるなど、具体的に取り組むことを確認します。

○視覚補助具の活用

弱視レンズ（単眼鏡、ルーペなど）や拡大読書器などの視覚補助具を活用できる力と態度を養う。



弱視レンズは本人に合った倍率の物を選定し、段階的な練習を行って習熟させます。弱視レンズなどの視覚補助具の活用スキルは学年が上がるにしたがって、重要度が増してきます。

○目と手の協応動作

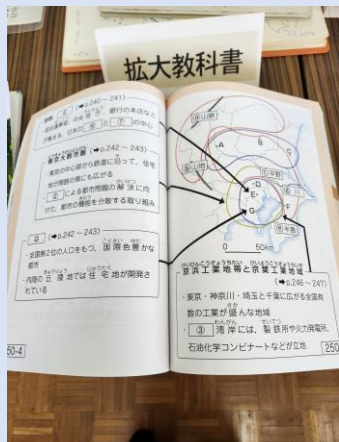
線や図形などの作図、書字、工作やはさみ、コンパス、定規の扱い、実験器具の操作、各種作業などを通して指導する。



生活や学習でよく使う用具などは、安全に効率よく使えるようにしっかり練習します。

○学習に必要なスキル・社会生活スキル（基本的な技能）

拡大教科書の活用、コンピュータの操作、安全な移動スキルの獲得を目指します。



拡大教科書は、ページ数やレイアウトが変わります。付箋やしおり、クリップなどを上手に活用できると便利です。

最近の PC には音声読み上げや背景色の変更など、様々な機能が備わっています。それらを使いながら、スムーズに PC を使えるようになることも大切なことです。

気をつけていただきたいのは、自立活動の時間に練習すべきことを、教科等の時間に行わないということです。例えば「単眼鏡がうまく使えないから、教科の時間にもなるべく使わせて上手にしよう」とすると、教科の理解、スキル共に中途半端になります。自立活動の時間を確保し、しっかりと指導をして、正しいスキルを身につけさせましょう。

以上、自立活動について述べてきました。自立活動の指導については高い専門性が必要となる場合もあるため、引き続き必要な情報等をお伝えしていければと考えています。

佐賀県立盲学校

電話 (0952) 23-4672

FAX (0952) 25-7044

代表メール mougakkou@education.saga.jp

お気軽に御連絡ください。巡回相談の依頼も受け付けています。